

四十雀（しじゅうから）

恋を失い命が尽きて
女は

鳥にわが身を変えた

ちいさな一羽の四十雀に

そしてあなたの窓に飛んでいき
色の淡いあなたの瞳を
小首を傾げのぞきこむ
――それは彼女の癖だった

もしも ジ ジ チュイルリ ジ との轉（さえず）りに
あなたが耳を傾けるなら
それは一度もあなたを貫かなかった
彼女の恋の歌（セレナーデ）

もしも灰色のきやしゃな翼を
あなたが丸い親指で二度撫ぜるなら
それは彼女を爪先立ちで回らせ続けた
火のように熱い夢

羽毛（はね）の頬に流れる冷たい涙を
もしもあなたが掌（てのひら）に受けるなら
涙は暗い色の石に変わる
それは彼女の最後の鼓動

時を超え
何千キロを越え
あなたのもとへ飛ぶだろう
ただ一度